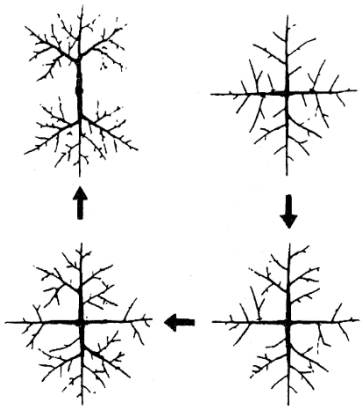
果　樹

【整枝・せん定】

１　りんご（普通樹）

（１）亜主枝の養成

主枝候補枝の４本から主枝を２本選びます（東西または南北）。基本、最上段の主枝とその対になる主枝を残すようにします。主枝には、基部から 1.5～2.5mの位置に 50～100cm の間隔で左右対象に亜主枝を１本ずつ選び、先刈りを入れながら丈夫に育てます。ただし、亜主枝の養成は決して急がないで下さい。急いで亜主枝を選ぶと、その部分が強くなりすぎて樹のバランスを崩します。亜主枝候補枝４本は、先端が下垂しないように真っ直ぐ伸ばします。亜主枝が大きくなるに従い、主枝候補枝（いずれ切除する主枝）の追い出しにかかり、存在価値が無くなったら切り落とします。



2本の主枝の確立

主枝候補枝の整理は、亜主枝の拡大とともに徐々に基部から側枝を切除し（追い出し）段階的に行う

（２）側枝　　側枝は細く維持し、常に更新を考えます。

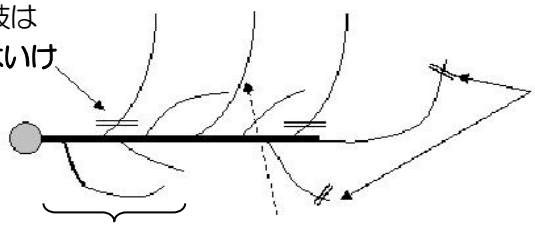
①細くて長い小さめの側枝を数多く置くと、生産性が高くなります。

②側枝を固定化して長く使うと、徐々に太り、大きな幅を必要とするようになり、思ったよりも生産性が劣るようになってしまいます。次のように側枝を扱うとよいでしょう。

③側枝の強弱に応じた扱い方

強い場合

基部側の強い枝は切る（**残してはいけない！**）



二次伸長部分のみ切る

勢力の抜き枝を作る。側枝上にはなるべく作らない。

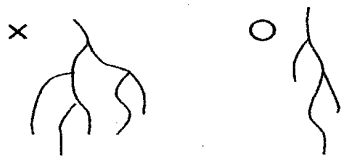
⇨

- ただし、先端が強い場合、中央よりやや先端側に強めの枝（抜き枝）をつくる。
- 長年この枝を残すと先端が下垂するので、先端に花芽が多く着生したらすぐに除去する。

弱い場合

弱い枝（腹側の枝）を切る。特に良好な花芽が着生していない枝は優先的に切り、勢いが先端にくるようにする。

④下垂した側枝（下垂枝）のつくり方



- 細く・長く、しかも先端部分に勢いが出るようにしましょう。
- 下垂枝は同勢力の二股にならないように注意します。
- 下垂しても、むやみに切り戻しをしないようにします。ただし、良い花芽が着かなかったり、新梢の伸長が極端に少ない下垂枝は切り戻しましょう。

２　ぶどう

ぶどうは水が動いてからせん定を行うと、先端の芽がうまく発芽しにくくなるほか、発芽がそろいにくくなります。そのため、枯れ込みが心配される場合には切り口に塗布剤を塗りつつ、２月中にはせん定を終わらせるようにしましょう。

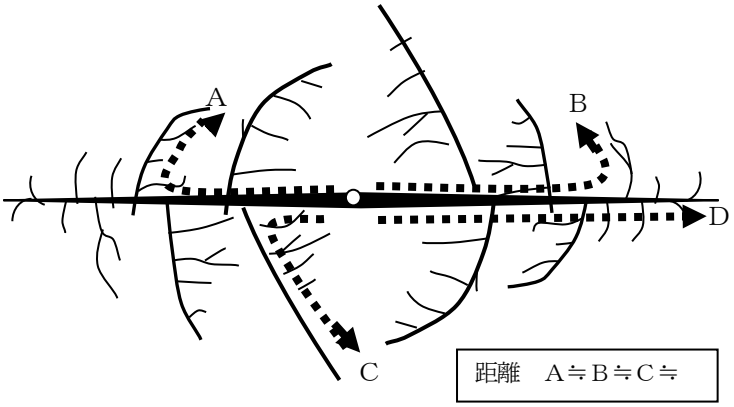
■中梢せん定（種なし）せん定のポイント

＜注意点＞

① 結果母枝の登熟状況をよく確認する(残す枝が登熟していないと、発芽せず、棚が空いてしまう)。
② 凍害防止のためにわら巻き等は丁寧に行う。
③ 急激な樹幹拡大は行わない。

（１）主幹からの距離

主幹（根）から、各側枝の先端までの距離が、だいたい同じ位になるようなイメージで樹形をつくる。
※ふところはあけ、返し枝を利用する。

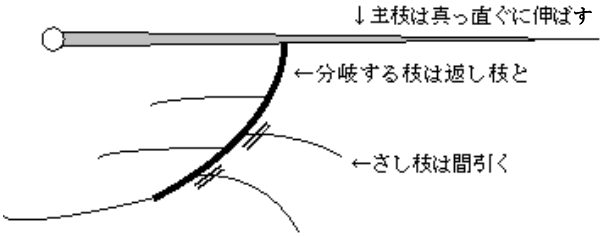


（２）主枝をまっすぐに伸ばす

主枝と側枝との勢力差をはっきりとつけ、**負け枝発生に注意する。**

（３）主枝、側枝に十分なスペースを与える（有核巨峰よりも広々と）

新梢が有核巨峰より長くなるため、誘引スペースを広くとり、新梢が伸びるスペースを確保する。



（４）追い出し枝は原則つくらない

有核栽培で多用する追い出し枝は必要がない。むしろ、追い出し枝の部分は空けて、誘引スペースとして活用すべき。ただし、収量を確保するために数年間活用してもよい。

（５）返し枝の活用

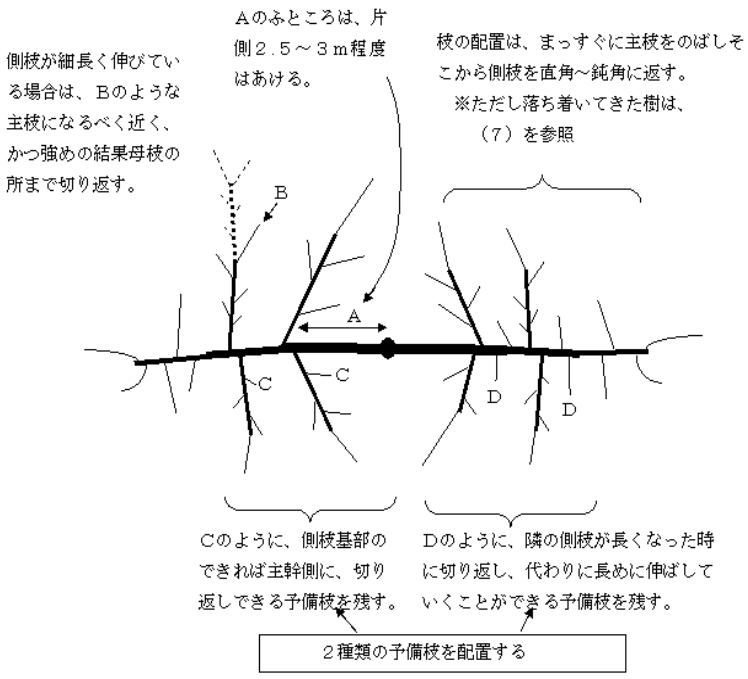
主幹に近い側枝は強くなるため、勢力を押さえるように返し気味に枝を配置する。

（６）さし枝は置かない

主枝先端と同一方向に伸びる強い内向枝（さし枝）は、樹形を乱すので必ず間引く。

（７）樹勢に注意し、古い枝を少なくする

樹齢が進んだら、長く伸びた側枝や負け枝、大きくなった側枝の整理や切り戻しを行う。比較的、形から入るせん定でよい。※左図のように、２種類の戻す枝（予備枝）を確保しておく。



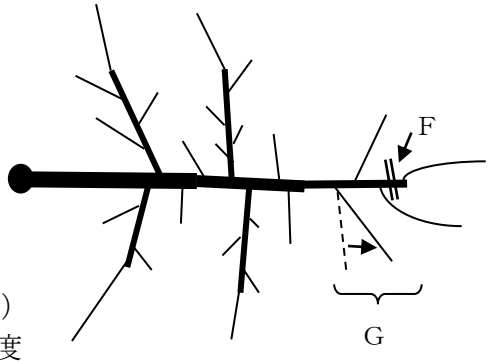
（８）主枝先端の勢力を保つ

主枝が目標程度伸びたら、概ね限界である。その位置より更に先に伸ばすよりは、樹勢を保つために、主幹からの距離を維持するような気持ちでせん定する。このため、主枝先端付近は、次のようにして強化する。

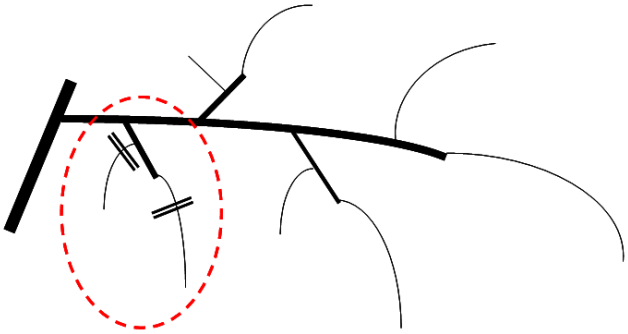
①枝先端は、力のある枝にする。
先端の勢力が弱まったら、強い枝まで切り戻す。（F）

②主枝先端付近には、やや強めの枝を配置し、誘引角度もやや先端側に向け、全体で勢力を引っ張る。（G）

③細い結果母枝でも、きれいに切らずに１～２芽残し、新梢が発生するようにする。
（翌年の予備枝確保にもなる。）



■はげあがり防止と枝の若返り



・樹勢を強めにするので、先端を延ばす傾向が強くなり、基部側の枝がはげやすくなる。

・戻したい位置の枝が強すぎる場合、一気に枝が巨大化して、先端が負け枝となりやすい。強すぎる枝よりもやや弱い枝の方が良く、更新する枝は２～３年かけて育成する。